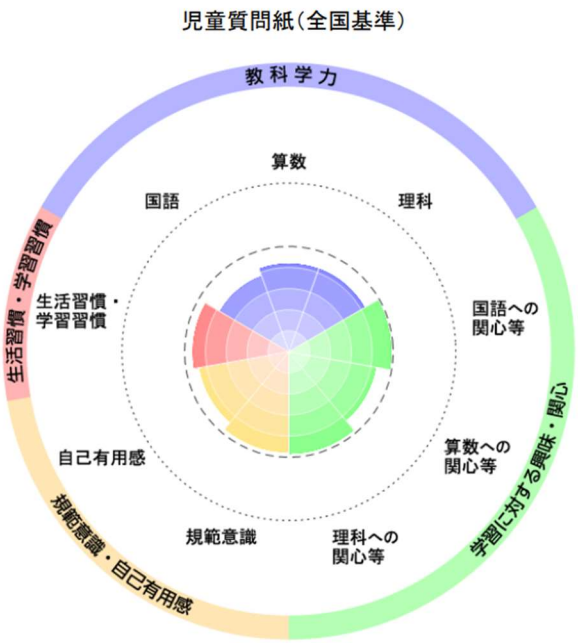
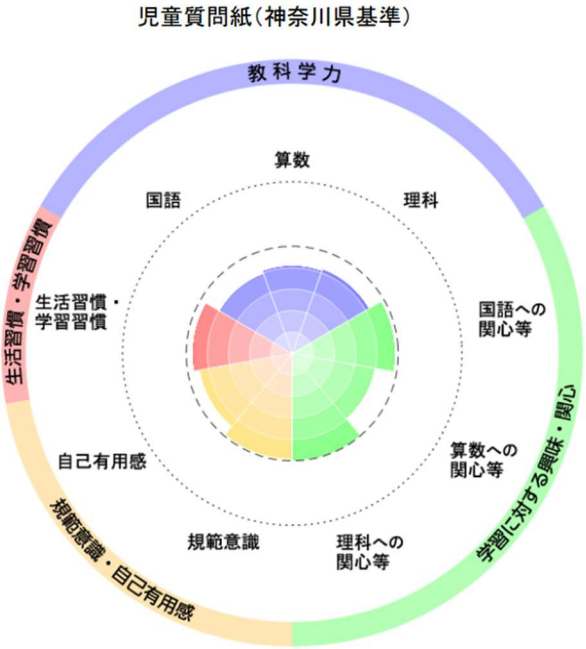
令和４年度　全国学力・学習状況調査（６年生対象）　結果報告

横浜市立六つ川西小学校

４月１９日に実施された「全国学力・学習状況調査（６年生対象）」の結果報告です。本調査は、国語科・算数科・理科の３つの学力調査と、学習や生活の習慣などを問う〔児童質問紙〕の３つの調査にて行われ、その結果をもとに本校にて考察をしました。左が全国基準との比較、右が神奈川県基準との比較です。どちらも、破線の円が平均値を表しています。





国語
「話すこと・聞くこと」「書くこと」「漢字」に課題
学習への高い関心を足がかりに

国語科の調査は、全国・県の平均値を下回る結果となりました。その中でも、「話すこと・聞くこと」については平均正答率で全国・県を１２％ほど下回り、課題があるといえます。一方で、話し合い等で相手に必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉える問題は正答率７５％と高く、これまでの学習が生かされているといえます。

また、自分の意見を書いたり、まとめたりといった学習は多くの児童が苦手であるとの結果が出ています。そして、漢字を文や文章の中で使うことに課題が見られるため、学習において感想や振り返りを書く

場面、日常生活において日記を書く場面など漢字を使うことを意識した取り組みが必要だといえます。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」というアンケート項目に対して「当てはまる」と回答した児童の割合は全国・県の平均とほぼ同じであり、学習への関心と意欲を示していることがうかがえます。その一方で、国語科は他の教科よりも、記述式問題における無解答の割合が高いことも気になります。自分の考えをまとめたり、書いたりすることに自信がなく、諦めてしまうする児童が多いといえます。

これらを足がかりとして、学習では話合いや発表などをもとにした「言語活動」をさらに充実させていく必要があると考えられます。伝える相手を意識した学習活動を丁寧に行っていくことで、学習への意欲や必要感、達成感を高めるとともに、対話的な学びを通して「話すこと・聞くこと」「書くこと」などの力を育てていきたいです。

算数
図形領域、データの活用の問題、考えの表現に課題
生活経験に根ざした学びを

調査全般において、全国・県の平均を下回りました。学習指導要領の領域の平均正答率の状況をみると、「Ｂ　図形」領域で、全国の平均値を１３％下回っており、特に課題があるといえます。また、問題形式別の回答状況をみると、短答式、選択式、記述式の問題の中で、記述式の問題、その中でも特に「思考・判断・表現」に関わる問題が最も大きく全国・県平均値を下回っていることが分かりました。

「児童質問紙」の結果をみると、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において「当てはまる」と回答した児童の割合が全国・県の平均値を上回るなど、国語ほどではないものの、こちらも高い関心と意欲があることが分かりました。また、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が、全国平均値を６％以上上回っていました。一方で、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」という質問に対して、４分の１ほどの児童が「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答しています。一つの考えではなく、友達との話合い等を通して、多角的な視点から様々な考え方を身につけられるように授業を工夫していく必要があります。

以上の結果から、授業では実生活に根ざした問題や具体物を用いた学習活動を通して、算数の学力の向上を図ることが重要であると考察できます。

理科
関心の高さを生かした授業づくり
自分の考えを記述することに課題

調査全般において全国・県の平均値を下回っているものの、国語科・算数科よりその差は小さいものです。「児童質問紙」からは、意欲の高さ、関心の高さが表れていました。

一方で、国語科・算数科にも言えることですが、理科でも「自分の考えを表現する」問題に課題が見られます。これらの問題は実験や観察などの結果から自分の考えをもち、記述するものです。日々の学習の中でも、実験・観察からどのような事を考察することができるのかをしっかり考えたり、自分の言葉で表現する活動に授業の中で取り組んでいったりする必要があります。

その他 （児童質問紙による調査結果から）
生活習慣の安定、自己肯定感、

上のグラフにも示されている通り、主に規範意識の高さを問う設問に対して前向きな回答をした児童の割合が、全国・神奈川県の平均とも同等の値を示していました。例えば、「人が困っているときは，進んで助けていますか」、「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」などに対して「そう思う」と回答した児童の割合は、いずれも全国・県平均値を上回っています。これらの姿は学校の中でもペア学年である一年生に対しての姿勢や、委員会活動での取り組みからも見ることができています。「読書は好きですか」という質問には、４４％の児童が「当てはまる」と回答し、「学校の授業以外に普段一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問には全国・神奈川県の平均の２倍もの児童が「２時間以上」と回答しています。しかし、「朝食を毎日食べているか」「就寝時刻」「ゲームやスマートフォンの使用時間」「スマートフォンや携帯電話等の使い方について家の人との約束を守っているか」という点については課題が見られます。ご家庭でも、もう一度生活や約束について確認してみてはいかがでしょうか。

また、「自分には、よいところがある」と答えた児童は全国・県の平均値を下回っていました。このことから、高い規範意識が発揮された場面において、友達から認められたり、友達の手本になったりする経験を多く味わうことにより、自己肯定感を高めていく活動が重要であると考えられます。自己肯定感の醸成は、今後も継続して本校の重点取組分野の一つに掲げ、取り組んで参ります。